

構造助詞“地”の解釈をめぐって
——「様態化接辞」説——

大島 吉郎

On the Meaning of Chinese Particle
“de (地)”

OSHIMA Yoshiro

内容提要

本文试图讨论现代汉语结构助词“地”字基本意义与日译方法。有关“地”字的基本意义与日译方法至今仿佛讨论得还不够，因而辞书和语法书上的解释未能得到完整的描写。因此，表状语的“地”字对于汉语初学者来说是一种比较难掌握的语法项目。

本文拟以状态补语“得”字的含义为端绪而解释“地”字基本意义，并提出它的基本日译方法。

目次

0. はじめに
1. 辞典に意味はどう記述されているか
2. 「様態化接辞」説
 2. 1. 「動作主」について
 2. 2. 「動作」について
 2. 3. 「様態補語」との関わり

3. 「様態化接辞」説の検証

4. おわりに

注

参考文献

引用書目

0. はじめに

現代中国語における主要な「構造助詞」には“的”、“地”、“得”が挙げられる（他には“所”、“似的”など）(1)。“的”は入門の早い段階に、“得”については初級のある程度学習が進んだ段階において、語法のポイントとして必ず取り上げられる重要な項目である。一方“地”についてどうかというと、その扱いは比較的軽く、重要項目というほどの扱いを受けているわけではない印象がある。例えば『簡明实用中国語課本』（1998年東方書店刊）では“的”について、二課に渡って取り上げている。

第13課 定語と構造助詞“的” (1)

第18課 定語と構造助詞“的” (2)

“得”については、第19課で「様態補語」という項目を立て、比較的詳細に説明を行っているが、“地”は第27課で「構造助詞“地”」を立て、以下のよう
に述べるに止まる (2)。

2音節語あるいは多音節形容詞が状語として動詞を修飾するとき、状語の後には、ふつう、構造助詞“地”をつけなければならない。例えば、

(a) 他高兴地说：“这个问题我懂了。”

(b) 这个工厂的工人为了实现四个现代化努力地工作。

(c) 上课的时候古波注意地听，下课以后他认真地复习。

同書は文中での語のはたらきについて指摘するのみで、意味については触れるところがない。その理由として、会話文での使用頻度が低いことを挙げ

ることができる(3)。しかし小説、散文をはじめ、書面語において“地”が用いられることは多い。例えば、

[副詞+“地”]

(01) …, 他觉得自己渐渐地进入了一个奇异的境界。(巴金《家》第5页)

(彼は自分がだんだんとある不思議な世界に入っていくような気がした。)

[形容詞+“地”]

(02) 哥哥温和地说着, 没有一点责备的口气。(《家》4)

(兄はやさしく穏やかに話し、少しも責めとがめる口ぶりはなかった。)

(03) 他着急地说: “…, 我恨不得把所有的话一字不漏地说出来……”

(《家》4)

(彼はつい気がせいて言った。「…ぼくはせりふを一言も忘れず全部言いたくてたまらないのに…」)

(04) …, 风雪会长久地管治着世界, 明媚的春天不会回来了。(《家》3)

(雪と風がずっといつまでも世界を支配し、麗しい春は戻ってきそうもなくなった。)

(05) 这样想着, 平时记熟了的剧本中的英语便自然地涌到脑子里来了。

(《家》5)

(こう考えると、ふだんしっかり覚えている芝居の英語が自然に頭の中に浮かんできた。)

(06) 雪片愈落愈多, 白茫茫地布满在天空, …。(《家》3)

(雪がますますひどくなり、真っ白に空を覆いつくし、…)

[動詞(句)+“地”]

(07) 哥哥高觉民带笑地说, 便停了脚步, …。(《家》4)

(兄の高覚民は笑みを浮かべながらそう言うと、立ち止まって、…)

(08) “…。你只管放胆地去做。……老实说, …。”(《家》5)

(おまえはかまわず思いっきりやりさえすればいいんだ。……本当のこ

とを言うと、…)

(09) 风刮得很紧，雪片像扯破了的棉絮一样在空中飞舞，没有目的地四处飘落。(《家》3)

(風が吹きすさび、雪はまるで引きちぎられた綿のように空中を舞い、あてもなくあたり一面に舞い落ちている。)

[比況性連語 + “地”]

(10) 他醒悟似地欢叫起来：“二哥，我懂得了！”(《家》5)

(かれははっとなにか悟ったかのように、うれしそうに大きな声で叫んだ。「兄さん、ぼくわかったよ。」)

(11) “…。要是那时候也是跟现在一样地说不出，那才丢脸嘞！”(《家》4)

(もしその時も今と同じようにせりふが言えなかったら、それこそいい面の皮だ。)

これらの例は、巴金著《家》の第一章冒頭部分からの引用である。学生は“地”によって示される部分が状語であることは理解できていても、その状語部分の意味をどう解釈したらよいのか、また日本語でどう表現したらよいのか、あるいは“地”が付くか付かないかといった、テキストの説明だけでは解決しきれない面がある。

小稿では構造助詞の中で“地”と表記される状語マーカーについて、基本的な解釈の方法を示し、他の構造助詞“的”、“得”と共通する意味項目の指摘を行おうとするものである。

1. 辞典に意味はどう記述されているか

守屋宏則1995では二箇所において“地”に関連する記述を行っている。例えば、

第2章 9.3 “地”の用法(4)

第4章 5.3 状語と“地”(5)

語法面における具体的な説明に用例と訳語を示すが、“地”そのものの基本的な説明には及んでいない。例えば、

他们非常热情地帮助我。

彼らはとても親切にわたしを助けてくれました。(6)

手续都很顺利地办好了。

手続きはすべて順調に済みました。(7)

下線部が連用修飾語であることを指摘するものの、“地”の「意味」は訳文の中から理解させようとする。

輿水優1985は第六章「虚詞」、1.2「副詞の後置成分」で“地”の説明を行うが、やはり“地”の本質に触れる記述は見られない(8)。

日本語への表現方法については辞典の記述を検討してみる必要がある。

『現代中国語辞典』1982年光生館刊。

単語あるいは連語の後に用いて〔副・修〕であることを示す。

『中日大辞典(増訂版)』1986年大修館書店刊。

副詞接尾辞：動詞と形容詞を修飾する場合は〔～〕を用い、その他の場合は〔的〕を用いる。特に形容詞の前に程度を表す副詞がある時は普通必ず〔～〕を用いる。

『講談社中日辞典(第二版)』2002年講談社刊。

動詞・形容詞の後に付いて連用修飾語をつくる。

『白水社中国語辞典』2002年白水社刊。

1 単音節形容詞の後に用いる。

①〔単音節形容詞+動詞〕の形では‘地’用いない。

②〔‘很’+単音節形容詞+‘地’+動詞〕の形で用いる。

③〔単音節形容詞の重疊形〔+‘地’〕+動詞〕の形で用いる。

2 複音節形容詞の後に用いる。

①〔複音節形容詞〔+‘地’〕+動詞〕の形で用いる。

②〔複音節形容詞の重疊形〔+‘地’〕+動詞〕の形で用いる。

3 〔動詞(句)+‘地’+動詞・形容詞〕の形で用いる。

4 〔名詞+‘地’+動詞〕の形で用いる。

- 5 [副詞＋動詞・形容詞] の形では一般に‘地’を用いない。
- 6 [擬声語＋‘地’＋動詞] の形で用いる。
- 7 [4字句などの語句[＋‘地’]＋動詞・形容詞] の形で用いる。

『中日辞典（第2版）』2003年小学館刊。

他の語句の後につけて、動詞・形容詞の修飾語をつくる。

『東方中国語辞典』2005年東方書店刊。

- 1 動詞の後ろに置き、連用修飾語をつくる。
- 2 形容詞の後ろに置き、連用修飾語をつくる。
- 3 名詞の後ろに置き、連用修飾語をつくる。

『白水社中国語辞典』では用法についての詳細な記述を行うものの、意味については何も述べられていない。このように、いずれの辞典も用法の説明に重点を置き、日本語との対比、日本語での表現方法については触れていない(9)。辞典利用者の学習年数が短い場合、個別例から意味解釈の法則性を理性的に、あるいは感覚的に見出すことは一般に不可能である。すべての例を挙げることができない以上、解釈を主要な目的とする辞典であれば、典型的な用法を示すと同時に、基本的な意味、また汎用される解釈の方法を提示して然るべきではなかろうか。従来、この点について十分な検討が行われてこなかったとすれば、小稿において独自の解釈の方法を提示し、その可否を問う意味もあるものと考えらる。

2. 「様態化接辞」説

劉月華・潘文娛・故韡2001は状語を「描写性」、「非描写性」の二類に分け、更にそれらに下位分類を施す(10)。例えば、

(一) 描写性的状語

1. 在语义上描写动作者的。
2. 描写动作的。

(二)非描写性的状語

1. 表示時間
2. 表示語氣和估計
3. 表示目的、依據、關涉、協同
4. 表示處所、空間、路線、方向
5. 表示對象
6. 表示否定、程度、重複、範圍、關聯

“地”が現れるのは(一)「描写性的状語」のときであり、それは「動作主」と「動作を描写するもの」と述べる。すなわち「動作主」がどのように動作を行うか、「動作」がどのように行われるかを描写するケースである。

2. 1. 「動作主」について

劉月華等2001が挙げる例を見てみよう(11)。例えば、

四凤胆怯地望着大海。

(四鳳は怯えた様子で大海を見ている。)

老人哆哆嗦嗦地从怀里拿出一件东西。

(老人はぶるぶる身震いしながら懐からなにか取り出した。)

他沾沾自喜地说……

(彼は得意満面といった様子で言うには、…)

動作主のありよう、状態を描くものだが、例文の語句によって、訳文は必ずしも同じ形を取るわけではない。状語は動作主に関する付帯状況を表し、実質的に連述形式と同じはたらきをしているためであり、静態(例えば“胆怯”、“沾沾自喜”)、動態(例えば“哆哆嗦嗦”)いずれのケースも見られるからである。

解釈を行い日本語に訳す際に、ある一定の公式(パターン)をあてはめることはできないであろうか。可能であるとすれば、それはどのようなものを想定し得るであろうか。

2. 2. 「動作」について

同じく劉月華等2001が挙げる例を見てみよう (12)。

这次手术很顺利地做完了。

(今回の手術は段取りよく順調に行われた。)

她的血压急剧下降。

(彼女の血圧が急激に下がった。)

请你亲自给他做这个手术。

(ご自身の手で彼に手術をしてあげてください。)

雨渐渐地小了。

(雨がだんだん小降りになってきた。)

「動作」を修飾する状語の場合、「～のように…する」形が一般的な日本語の対応形式であると考えられるが、“地”を接辞しない例(“急剧”、“亲自”)も並行して挙げられており、状語部分の日本語訳は、やはり不規則になる。一概に助詞「に」、あるいは「(だんだん)と」などの語を用いて処理すれば事足りるわけではない。

2. 3. 「様態補語」との関連性

状語マーカー“地”の基本的意味をどう考えるか。ここでは「様態補語」を手がかりに、“地”の意味を考えてみることにしたい。

「様態補語」に用いられる“得”について《現代漢語八百詞(増訂本)》では、次のような形式に整理されている(13)。

a) 動 / 形 + 得 + 形

说～快 / 写～清楚 / 雨下～急

b) 動 / 形 + 得 + 動

跑～一个劲儿地喘 / 大厅里亮～如同白昼 / 墙上打～都是洞

c) 動 / 形 + 得 + 小句

累～气都喘不过来 / 跑～满身都是汗 / 伤心～眼泪围着眼圈儿转

d) 動 + 得 + 名 + 動

忙～他团团转 / 逗～我们哈哈大笑 / 乐～他跳了起来

e) 一般的动宾短语加‘得’时，要重复动词

他唱歌唱～好听极了 / 我说话说～忘了时间了 / 孩子们听故事听～不想回家

f) 动 / 形 + 得 + 四字格

讲～一清二白 / 说～头头是道 / 搞～乱七八糟

g) 形 + 得 + 很

好～很 / 糟～很 / 清楚～很

h) 动 / 形 + 得

看把你美～! / 瞧你说～! / 这番话把他气～!

i) 以上格式的动词或形容词前如意思上容许加否定词，一般限于‘别、不要’

别搞～乱七八糟 / 别说～太过分了 / 不要弄～太响

例えば、“说得快”。どのような話しぶりかを述べる。

話すのが速い (速かった)

早口で話す (話した)

例えば、“写得清楚”。どのような書かれ方かを述べる。

書かれている内容に曖昧な点がない (なかった)

明確に書かれている (書かれていた)

例えば、“雨下得急”。雨の降り方がどうかを述べる。

雨の降り方が激しい (激しかった)

雨が激しく降っている (降った)

「結果補語」と区別するため「様態補語」という名称を用いているが、実際には「結果」をも当然含む。

いずれのケースも下線部のように、連用修飾語を用いての日本語訳が可能である。これは事実関係の転換を示すものではなく、表現の手段を換えるための、異なる形式の選択が行われるケースである (14)。

中国語の表現形式では以下のように考えられる。「様子、状態」をキーワードにして日本語での表現を対応させてみることにする。

A：動詞＋得＋補語　写得清楚

～するのが…（という様子、状態）だ

～の仕方が…（という様子、状態）だ

～したら…（という様子、状態）だった

B：状語＋地＋動詞　清楚地写

…（という様子、状態）で／に～する

定語マーカー“的”についてはどうか。修飾関係を表す場合について相関性をうかがうことができる。

C：形容詞（句）／動詞（句）＋的＋名詞

…（という様子、状態）な／の～

形容詞については重畳形に“的”の接辞が求められることが多いが、この“的”の解釈をめぐっても同様の考え方が受け入れられるのではなかろうか。

AA（兒）＋的＋名詞／V＋得＋AA（兒）＋的

ABB＋的＋名詞／V＋得＋ABB＋的

AABB＋的＋名詞／V＋得＋AABB＋的

「様態補語」において“得”は不可欠の要素であるが、状語に“地”は絶対に必要なわけではない。定語の“的”も使用が絶対条件ではない。このような点から、構造的な共通性は状語の“地”と定語の“的”にあるといえるが、三者に共通の意味素として「様子、状態」を認めることができ、そして統一された概念規定を行うとすれば「様態化接辞（様態化マーカー）」とすることができるのではないか、というのが小稿の論点である。

初級学習者にとって中国文を解釈する際に、まず第一段階として用いてみるプロトタイプが上掲の訳例であり、適切な、よりこなれた訳文は第二段階以降から推敲を重ねる、ということになる。

3. 「様態化接辞説」の検証

『簡明実用中国語課本』に挙げられる例に即して解釈の方法を試みてもとにする。

(a) 他高兴地说：“这个问题我懂了。”

(彼はうれしそうな様子で言った。「この問題はわかりました。」)

⇒うれしそうに言った

(b) 这个工厂的工人为了实现四个现代化努力地工作。

(この工場の労働者は四つの近代化を実現するためにがんばっている状態で仕事に励んでいる。)

⇒がんばって働いている

(c) 上课的时候古波注意地听，下课以后他认真地复习。

(授業のときクーパーは注意をはらった状態で授業を聞き、授業が終わってから彼は真剣な様子で授業の復習をする。)

⇒注意をはらって授業を聞き

⇒真剣に授業の復習をする

また同書には第28課に次のような例も示されている (15)。

(d) 代表们认真地了解了这个大学的情况。

(e) 他希望以后能更好地研究中国文化。

訳例を適用してみよう。

(d) 代表团一行はこの大学の状況を真剣な様子で理解につとめた。

真剣な様子で⇒真剣に

(e) 彼は今後更にすばらしい状態で中国文化を研究できるよう希望している。

更にすばらしい状態で⇒よりよく

「様子」を選択するか「状態」を選ぶかは、語句の組み合わせの適否に依る。当然一定の法則性があるものと思われるが、小稿ではこの問題に立ち入らない。初級段階におけるこのような方法の有効性は、会話、作文よりも解釈の面において確認され得るものとする。

4. おわりに

これまでに示した“地”の基本的な意味解釈及び日本語への翻訳の方法は、根本的なそれではないにしても、初学者にとって理解のための有効な手段であるとする。 “地”は従来、辞典、文法書には深くは取り上げられることの少なかった項目であるが、中国語解釈の上では必要不可欠の文法項目であり、応用範囲も広い。基本的な知識が得られれば中国語の理解も深まることが期待される。

筆者にとって“地”の意味は中国語学習開始直後からの素朴な疑問であった。この積年の問いに、ある一定の回答を行ったが、“地”および/de/の本質を問う厳密な議論は次の段階とすることにした。

注

(1) 輿水優1985、pp. 304参照。

(2) pp. 234。また同書pp. 243「語法小結」に「状語と構造助詞“地”」として“地”接辞の使用について説明を行っている。

「様態補語」という名称については、「状態補語」、「“得”補語」などの言い方も行われている。小稿では“地”及び“得”、“的”の意味を考えた上で示唆に富む「様態補語」の名称を取って用いる。

(3) 初級テキストの中には“地”を取り上げないものも当然ある。『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（1996年同学社刊）にも項目を立てての記述は見られない。

(4) pp. 101。

(5) pp. 164。

(6) pp. 101.

(7) pp. 166.

(8) pp. 248.

(9) “地”を接辞して用いるケースが認められる数量表現の状語、例えば、

[“一” + “一” + “地” + 動詞]

[“一” + 量詞 + “一” + 量詞 + “地” + 動詞]

[“一” + 量詞 [+ “一”] + 量詞 + “地” + 動詞]

についても用法の一環として触れておく必要があるであろう。文学作品の地の文に多く見られる。例えば、

[“一” + “一” + “地” + 動詞]

他一一地记住了。(《家》第40页)

由克明和克安一一地摆到供桌上去。(《家》156)

既不能一一的细想，…。(《骆驼祥子》第83页)

叫她们分离开，而后再一一的收拾。(《牛天赐传》第391页)

[“一” + 量詞 + “一” + 量詞 + “地” + 動詞]

这些年轻人一个一个地上了楼。(《家》162)

倚在门前看他们一个一个地上了轿。(《家》389)

世界是一天一天地变新的。(《家》32)

她的肚皮一天一天地大起来。(《家》233)

红霞碎开，金光一道一道地射出，…。(《骆驼祥子》25)

它一次一次的在我的记忆中的碧云上斜挂着。(《月牙集》第1页)

[“一” + 量詞 [+ “一”] + 量詞 + “地” + 動詞]

他不能一个个的去批评她的主意，…。(《骆驼祥子》82)

他一个个的拉过去，拉到了地方就是一个脖子拐：…。(《牛天赐传》450)

及至我认识了警官，才一个个的收拾他们。(《月牙集》28)

近世語の資料からは、《脂硯齋重評石頭記（庚辰本）》に例が見られる。

例えば、

〔“一” + “一” + “地” + 動詞〕

黛玉一一的都答应着。(《脂》第3回, 28页)

少不得一一的改过来, 因而接了茶。(《脂》3, 29)

如今宝、秦二人都来了, 一一的都互相拜见过, …。(《脂》9, 92)

贾蓉一一的答应着出去了。(《脂》10, 106)

凤姐儿一一的答应了。(《脂》11, 116)

小厮再旁, 一一的告诉了名色, 说明原委。(《脂》15, 145)

然后一一的都各领令去了。(《脂》19, 196)

〔“一” + 量詞 + “一” + 量詞 + “地” + 動詞〕

只见军牢快手一对一对的过去, …。(《脂》1, 11)

从公侯伯子男一起一起的散去, …。(《脂》15, 145)

一时, 传人一担一担的挑进蜡烛来, …。(《脂》17, 175)

这里的贾母带着众人, 一层一层的瞻拜观玩。(《脂》29, 299)

用手翻弄导拨, 一件一件的挑与贾母看。(《脂》29, 303)

只见李宫裁、迎春、探春、惜春并各项人等都向怡红院内去过之后, 一起一起的散尽了, …。(《脂》35, 356)

把那金钱拿来, 配着黑珠儿线, 一根一根的拈上, …。

(《脂》35, 365)

只向灯下一首一首的读起来。(《脂》48, 504)

〔“一” + 量詞 [+ “一”] + 量詞 + “地” + 動詞〕

一个个的不像抓破了脸的。(《脂》第61回653页)

〔“一” + 量詞 [+ “一”] + 量詞 + “地” + 動詞〕の例は《兒女英雄傳》において多く見られるようになる。例えば、

…，那上身绑的绳子便一段段的松了下来。(《儿》6回90页)

…，跟了女子一步步的踱进房来。(《儿》6, 91)

公子只得一步步的踏上炕去, …。(《儿》6, 93)

张老应了一声, 便一件件的搬出门去, 堆在廊下。(《儿》8, 121)

…，一面眼睛随着笔一字字的往下看, …。(《儿》10, 159)

“地”の通時的变化についてのトータルな記述はまだ行われていない。太田辰夫1958、pp. 353には宋、元における状況が記されるのみで、数量表現が状語となる事例については触れられていない。

(10) pp. 504。

(11) pp. 505。訳文は筆者による。

(12) pp. 506。訳文は筆者による。

(13) pp. 164。用例は一部分を引用。

(14) なにを表現しようとするかという点においては、異なる意味を表すのは当然である。

(15) pp. 243。

参考文献

輿水 優1985. 『中国語の語法の話——中国語文法概論』、光生館。

守屋宏則1995. 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』、東方書店。

太田辰夫1958. 『中国語歴史文法』(1981年朋友書店復刻)。

刘月华・潘文娉・故粹2001. 《实用现代汉语语法(增订本)》、商务印书馆。

吕叔湘1999. 《现代汉语八百词(增订本)》、商务印书馆。

引用書目

《家》、巴金著、1962年1月北京第2版、1988年人民文学出版社。

《月牙集》、老舍著、1981年河北人民出版社。

《骆驼祥子》、老舍著、1962年第2版、1978年人民文学出版社。

《牛天赐传》、老舍著、1981年《老舍文集(第二卷)》人民文学出版社。

《脂本汇校石头记》(全3册)、郑庆山校、2003年作家出版社。

《儿女英雄传》(全2册)、松颐校注、1983年人民文学出版社。